

リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

【取組内容】 自ら問いを持ち、問題解決していく子を育てるために

児童が主体的に学ぶことができるよう、「問いづくりの視点」を掲示・配布したり、シンキングツールを活用したりすることで、児童が深い問いを作成し、解決するための手立てとした。

ポイント

1. 児童が解決したいことや読み深めたい「問い」を引き出すため、「問いづくりの視点」を教室に掲示したり、タブレット端末でデータとして配布したりした（図1）。
2. 児童は5W1Hを軸に深い問いを作成し、解決するための手立てとした（図2）。
3. 「見える・思う・引っかかる」の視点ごとに自分の考えていることをシンキングツールを活用し、可視化したり、解決したい順に順序立てていったりしたことで、主体的に学ぼうとする手立てとなった（図3・図4）。



図3：見えるー思うー引っかかる  
イメージマップから問いに繋がる要素の書き出し

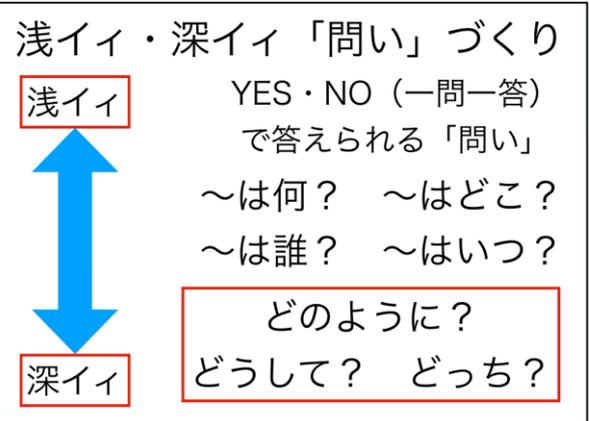


図2：深い問いについて  
学陽書房「問いから始まる授業」樋口万太郎著より

単元を通して解決したい問いは、

1. ~~~。  
予想：~~~だと思う。
2. ~~~。  
予想：~~~だと思う。
3. ~~~。  
予想：~~~だと思う。

図4：図3で書き出した要素から単元を通して追究したい問いの順位

図1：問いづくりのコツカード  
学陽書房「問いから始まる授業」樋口万太郎著より

## 【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより実現するために

各教科において学習する際、KeynoteやGoogleスライドを活用し、学習シートを作成した。写真を添付したり、キーワードや重要事項、友だちとの交流の中で深まった意見を書いたりできるシートを作成した（図1）。

日付○月○日（○）

名前【~~~~~】

クラスの課題「~~~~~」

自分の問い「~~~~~」

★調べてわかったこと【**事実**】

写真や資料を貼り付けてもOK

ページ数やサイトなどがあれば残す

. ~~~~~

★調べてわかった考え【**自分・友だち**】

. ~~~~~

★振り返り【①方法②内容を+・-・αで】

① 学習方法でうまくいった部分は～～。

② 課題や問いに対してうまくいった部分は～～。

図1：各自に配布している学習シート

リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより実現するために

児童は、予め教師が配布したワークシートに直接書き込んでいたが、他者参照する中で、自分なりにレイアウトを変えたり、文字の大きさや色を工夫してまとめたりできるようになってきた（図2）。

他者参照できることは、学習する上で協働的な学びを促進した一方で、友だちの意見を取り入れる際に誤って削除してしまうトラブルも何度か起こった。事前に指導を入れたり、その都度指導を入れたりしていくことが重要であると感じた。

図2：図1に学習したことを整理したり、レイアウトを各自変えたりして、オリジナルシートにしたもの

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

## 【取組内容】 デジタルポートフォリオで育む情報活用能力 ～学びを整理し振り返る力を高める～

タブレット端末と紙媒体を併用することで、児童が学習内容を効果的に整理・蓄積できるハイブリッドな学習環境を構築した。これにより、児童の情報整理能力を高め、学習の振り返りを容易にする効果があった。

## ポイント

1. タブレット端末を活用し、学年・教科・単元ごとにフォルダ（図1）を作成することで、デジタル上で学びを管理できる環境を整えた。
2. 紙のノートやワークシートも併用し、写真を撮影して貼り付けることで、デジタルとアナログを融合させたハイブリッドな学習環境を実現した。
3. 情報を整理する習慣（図2）を身につけ、学習記録を振り返ることができるようになった。



図1：教科の単元ごとにまとめたフォルダ



図2：図1の中の毎時間の学習シート

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

## 【取組内容】 ④情報共有をその場でできるシステム作り

二次元コードを用いた欠席連絡システムを導入することで、欠席情報のリアルタイム共有を実現できるようになった。また、生活アンケートを定期的の実施することで、児童理解を深め、より良い学校生活を送れる手立てとした。

### ポイント

1. 二次元コードから欠席連絡を入力し、スプレッドシートに反映できるようにしたことにより、職員のタブレット端末からどこでもリアルタイムで欠席連絡を確認できるようになった。
2. 毎週末に生徒指導の観点からformを活用して生活アンケートをクラスごとに実施し、集約することで児童の様子を数値化し、次週以降によりよい学校生活を送れる手立てとした。

23:20 1月30日(木)

洲三小欠席・遅刻フォーム (回答)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			2 お子様のお名前を入力してください。 学年を選択してください。		4 お子様の氏名を入力してください。	5 連絡したい内容を選択してください。	6 欠席及び遅刻をする理由を選択してください。(複数回答可) 【発熱】 【感染症】 を選んだ場合は、「その他」を選択し、さらに体温または感染症名(インフルエンザ・水痘等)を記入してください。	7 上記5の連絡内容において、【遅刻】を選択した場合は、何時ごろに登校できるか記入してください。(該当しない場合は、未記入で結構です。)

598 2024/11/01 8:34:54 11-01

599 2024/11/01 8:33:14 11-01

600 2024/11/01 8:23:04 11-01

601 2024/11/01 7:57:30 11-01

602 2024/11/01 7:46:09 11-01

603 2024/11/01 7:24:48 11-01

604 2024/10/31 8:29:57 10-31

605 2024/10/31 8:26:45 10-31

606 2024/10/31 8:25:16 10-31

607 2024/10/31 8:19:52 10-31

608 2024/10/31 8:15:50 10-31

609 2024/10/31 7:46:54 10-31

610 2024/10/30 8:37:03 10-30

611 2024/10/30 8:23:47 10-30

612 2024/10/30 8:18:41 10-30

613 2024/10/30 8:05:06 10-30

614 2024/10/30 8:04:24 10-30

615 2024/10/30 7:38:05 10-30

616 2024/10/30 7:17:27 10-30

617 2024/10/30 6:56:42 10-30

618 2024/10/30 1:29:24 10-30

619 2024/10/29 8:28:26 10-29

620 2024/10/29 8:07:14 10-29

洲三小欠席フォーム R7. 1月電話速 R7. 2月電話速 R7. 3月電話速 R7. 4月電話速 R6. 11月電話速 R6. 12月電話速 F +

図1：formで回答された各家庭からの欠席連絡

A	B	C	D
	曜日	欠席児童名 例 1-1洲本太郎 (発熱37.6)	
11月1日	金	従来通り家庭連絡があった場合には、同様のスプレッドシートに手入力することで閲覧可能になる。	
11月2日	土		
11月3日	日		
11月4日	月		
11月5日	火		

図2：従来通り欠席連絡があった際の入力シート

リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

【取組内容】④情報共有をその場でできるシステム作り

生徒指導で起こったトラブルや情報共有しておく内容を、スプレッドシートにその場で入力できるようにしたり、生活アンケートを定期的の実施したりしたことで、児童理解を深め、トラブルの未然防止や、より良い学校生活を過ごすための手立てとなった。

【生徒指導担当より】  
 プチ学校生活アンケートについて  
 アンケートの実施お世話になります。  
 1月の重点目標は「気持ちのよいあいさつをしよう」です。  
 よろしくをお願いします。

- 1-1 <https://forms.gle/F7Ws6uPWuTW7>
- 1-2 <https://forms.gle/i9au6SPDu5GP8>
- 2-1 <https://forms.gle/LdURf1aj2GD9>
- 2-2 <https://forms.gle/zEsdxJTCsNN7>
- 2-3 <https://forms.gle/yNeJpoKHn1hT6>
- 3-1 <https://forms.gle/QWhMTPpbJ3c89>
- 3-2 <https://forms.gle/8Vg9tPFcJn4m47>
- 4-1 <https://forms.gle/lsg99tnqjgdQMA>
- 4-2 <https://forms.gle/qais5E7sHVesd8>
- 5-1 <https://forms.gle/LF9jkobyQAE97>
- 5-2 <https://forms.gle/VR4VbNCHhJFbb6>
- 6-1 <https://forms.gle/iBshSaps6oBN9>
- 6-2 <https://forms.gle/SNJuxN6b7CwC9>

先週分のアンケート結果を貼り付けていますので、ふりかえりや学級指導にお使いください。

プチ学校生活アンケート集計 1月②.pdf



前の週のアンケート結果

クラスのコメントを追加

ストリーム

授業

人

プチ学校生活アンケート集計(1月②)1/24実施

	1.ともだちのなまえをよぶとき、「くん」「さん」をつけてよぶことができる。	2.いねいなことばをつかって、ともだちがきずつようなことをいっていない。	3.じぶんからあいさつをすることができる。	4.あいてのほうをみてあいさつをすることができる。	5.げんきにあいさつをすることができる。	6.えがおであいさつをすることができる。	7.ちいきのひとやかぞへのあいさつをすることができる。
1年1組	100%	100%	92%	100%	92%	92%	100%
1年2組	96%	92%	92%	92%	100%	92%	100%
1年生	97%	95%	92%	95%	97%	92%	100%
2年1組	96%	100%	96%	100%	91%	87%	96%
2年2組	91%	95%	82%	91%	77%	77%	91%
2年3組	100%	100%	82%	82%	73%	82%	100%
2年生	95%	98%	88%	93%	82%	82%	95%
3年1組	97%	100%	90%	93%	87%	80%	77%
3年2組	93%	100%	100%	100%	100%	97%	93%
3年生	95%	100%	95%	97%	93%	88%	85%
低学年	95%	98%	91%	95%	90%	87%	92%
4年1組	95%	95%	95%	90%	90%	81%	95%
4年2組	92%	88%	83%	96%	83%	83%	92%
4年生	93%	91%	89%	93%	87%	82%	93%
5年1組	88%	96%	100%	100%	100%	92%	88%
5年2組	90%	94%	94%	94%	87%	81%	97%
5年生	89%	95%	96%	96%	93%	86%	93%
6年1組	88%	96%	85%	92%	85%	88%	85%
6年2組	83%	88%	100%	96%	92%	75%	88%
6年生	86%	92%	92%	94%	88%	82%	86%
高学年	89%	93%	93%	95%	89%	84%	91%
全校生	92%	95%	92%	95%	90%	85%	91%